

「できーくん」でキュウリがよみがえった!

今月号はたより初登場のキュウリの話です。愛知県刈谷市の石川誠さんは1200坪のハウスで土耕と水耕のキュウリ周年栽培を展開されています。このあたりは、キュウリ産地として知られており、中でもお父さんの技術は高く評価されていました。そんな環境の中で17年前誠さんが参画することになり水耕施設(さか300坪)を導入されたのが水耕へのきっかけでした。現在でも土耕が主体ですが、土作りを非常に大切にされています。圃場へ足を踏み入れてもフカフカで足が沈み込み、それは見事なものです。水耕の生育の早さ、土作り作業からの開放などをねらって水耕への取組でしたが、必ずしも順調

とは言えない状況でした。今年9月、水耕用の苗づくり過程で失敗し、全廃棄をも決断せねばの状況となり、水耕を土耕に置換しようかと悩まれたとのことです。弊社では「できーくん」の設置を薦め、一作トライしてみることにしました。定植以来約2ヶ月を経過しましたが、樹勢も回復し、側枝も順調に出てきている状況となり、その効用に驚かれています。管理EC値も、以前の2.0から1.2~1.4の状況に変化してきています。今の状態は、すこぶる順調で以前の管理を見直す機会になったとおっしゃっておられました。「考えてみると、以前はアップ剤(KOH)多用による管理で、植物体に適した本来の管理とは

なっていなかったかも知れない」「今作は、苗が順調でなかったのに収量が、より増大するところまではいかないかもしれないけれど、水耕の良さが再認識できたので、次作もトライしてみる。確かに(できーくん)の効用は認められる」と笑顔で話してくれました。

根からの有機酸など老廃物の分泌があることは知られていますが、それをどう対処(処理)していくかが難しく、キュウリの水耕は安定性がないとの評価になっていましたが、できーくんは、この壁を破ったと言えるのではないのでしょうか。トライいただいた石川さんに敬意を表するとともに今後のご発展をお祈りいたします。(担当 川村庄一)

